

<第111回調査>

2018年8月27日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2018年8月14日(火)13:00～2018年8月21日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は614件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

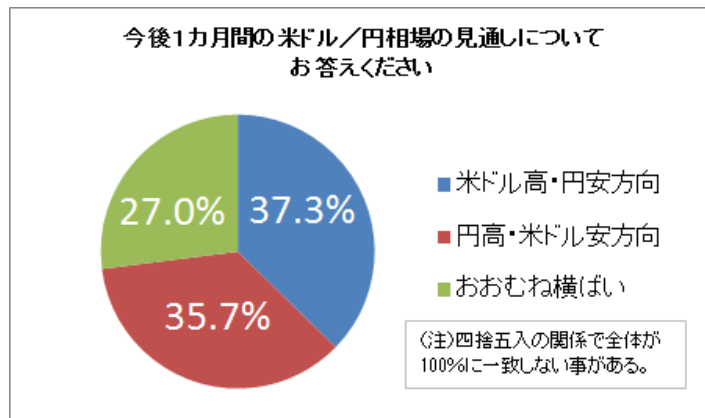
Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第111回調査結果略報：米ドル強気の見方が急速に縮小】

問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

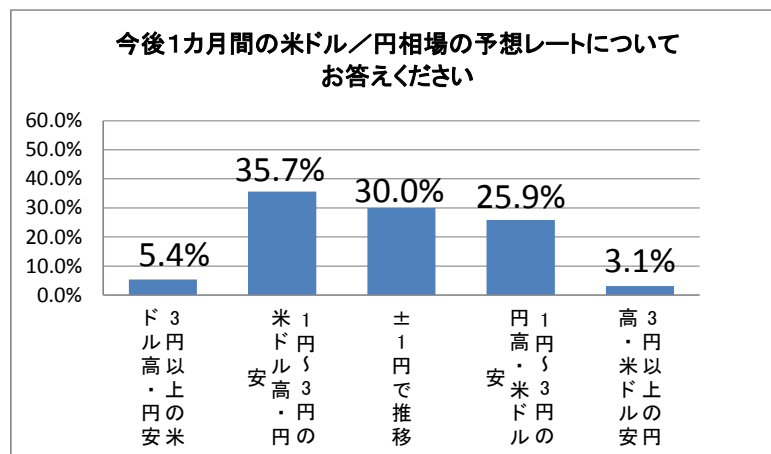
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「米ドル高・円安方向」と答えた割合が37.3%であったのに対し「円高・米ドル安方向」と答えた割合は35.7%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△1.6%ポイントとなり、6カ月連続でプラス圏を維持したがプラス幅は前回の△37.2%ポイントから大幅に縮小した。なお、「おおむね横ばい」の割合が低く、強気見通しと弱気見通しが比較的高水準で拮抗した点が印象的だ。調査期間中の米ドル/円は、トルコ問題や米中貿易問題の影響で弱含んだが、そうした不安材料が多かった割には下げ幅が小さかったとも言える。個人投資家の今後の見通しが強弱に二分された理由もそのあたりにあるのだろう。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が35.7%と最も多く、「±1円で推移(30.0%)」、「1円～3円の円高・米ドル安(25.9%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(5.4%)」と続き、「3円以上の円高・米ドル安」は3.1%という結果であった。ここでも、米ドル高・円安派と、円高・米ドル安派の割合が拮抗している様子が覗え、ヒストグラムの形状も僅かに米ドル高・円安方向に傾いている。また、個人投資家の多くが大幅な値動きを想定していない事も覗える。

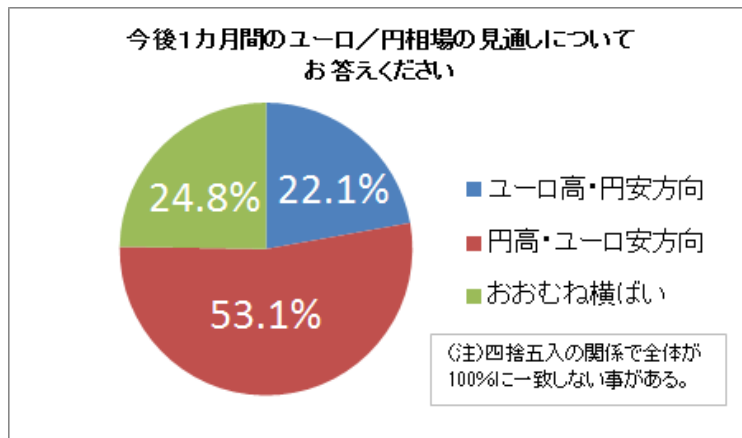


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

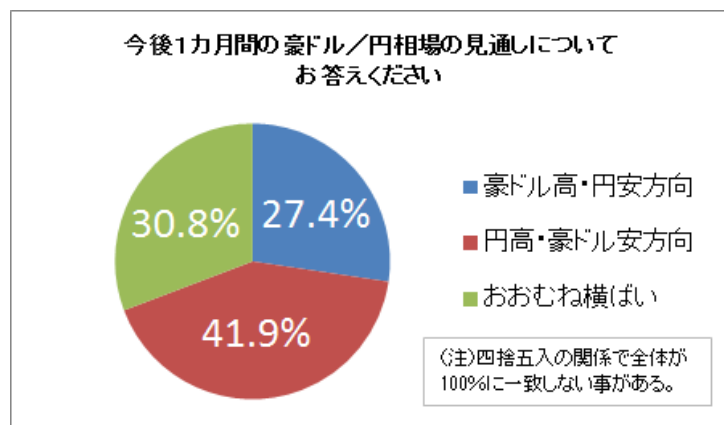
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が22.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合は53.1%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は▼31.0%ポイントと、6カ月ぶりにマイナス圏に転落。マイナス幅は▼38.9%ポイントを記録した2017年4月以来の大きさとなった。調査期間中のユーロ/円相場は、トルコ・ショックの影響(スペイン等の銀行のトルコ向け債権が毀損するとの懸念)や、イタリアの財政不安などから一時、約3カ月ぶりに125円台を割り込んだ。そうした中で、個人投資家のユーロに対する見方が急速に弱気化したと見られる。※過去のユーロ/円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が27.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は41.9%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は▼18.5%ポイントとなり、こちらも6カ月ぶりにマイナス圏に落ち込んだ。調査期間中の豪ドル/円は、2016年11月以来の80円台割れを示現したが、その後は米中貿易摩擦への警戒感が緩んだ事などから持ち直した。それでも個人投資家の豪ドル弱気・円強気の見通しは払拭するには至らなかったようだ。

※過去の豪ドル/円予想DIの推移はP7-8に掲載。



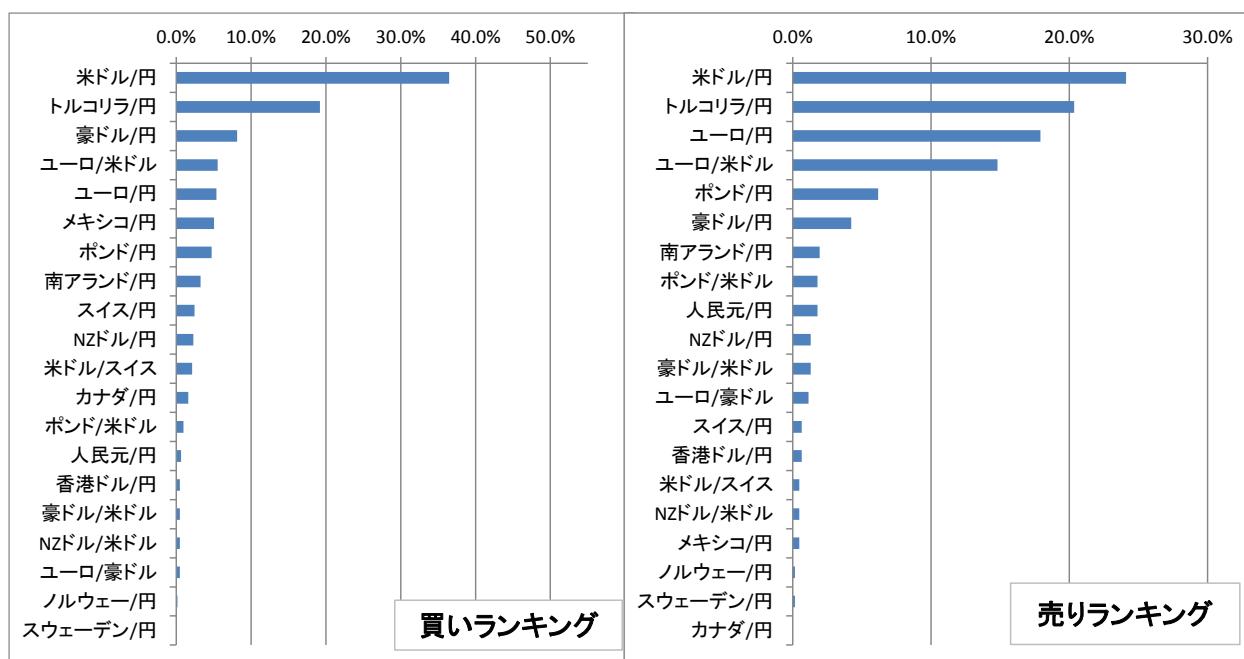
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が36.5%の回答割合を集めて首位をキープした。以下、トルコリラ/円(19.2%)、豪ドル/円(8.1%)、ユーロ/米ドル(5.5%)、ユーロ/円(5.4%)の順に続いた。米ドル/円については、71カ月に連勝記録を伸ばしたが、トルコリラ/円も6カ月連続で2位の座を維持した。トルコリラ相場は、調査期間の直前に史上最安値を更新して15円台へと下落したが、調査期間中には一時19円台を回復するなど大きく変動した。こうした荒っぽい相場展開の中でも「買い」で注目の回答割合を前回の12.3%から伸ばした点が印象的だ。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が24.1%の回答割合で22カ月連続でトップを維持。続いて2位がトルコリラ/円(20.4%)、以下ユーロ/円(17.9%)、ユーロ/ドル(14.8%)、ポンド/円(6.2%)の順に続いた。こちらでもトルコリラ/円が回答割合を前回の11.4%から伸ばしている。為替市場においては「マイナー通貨」に分類されるトルコリラだが、個人投資家の間では、メジャーな通貨と言えそうだ。

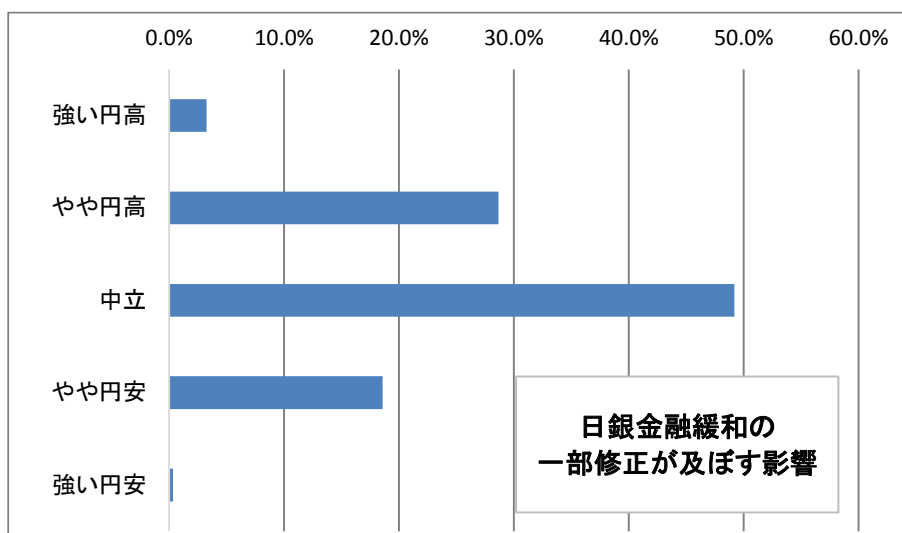


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6:7月31日に日銀が決定した金融緩和の一部修正は、今後の円相場にどのような影響を及ぼすと思いますか？(ひとつだけ)

今回の特別質問として、「7月31日に日銀が決定した金融緩和の一部修正は、今後の円相場にどのような影響を及ぼすと思いますか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「中立」との回答が49.2%とほぼ半数を占めた。以下、「やや円高(28.7%)」、「やや円安(18.6%)」、「強い円高(3.3%)」、「強い円安(0.3%)」と続いた。それぞれの回答理由を自由記述形式で尋ねたところ、「中立」と答えた層は「長期金利の±0.1%(容認)が円高、フォワードガイダンスによる量的質的緩和の継続指針が円安、よって±0(中立)」と指摘した。「強い円高」および「やや円高」と答えた向きからは「テーパリング(緩和縮小)だと受け止めている」、「金利が上昇するので円高要因」との回答が多かった。「強い円安」および「やや円安」とした向きからは「緩和の修正とまではいかず、何かのショックが起きない限りは円安方向が順目と考える」との回答や「普通に行けば(米国との)金利差が埋まらないので円安」との回答が寄せられた。金融機関の収益悪化などの「副作用」に一定の配慮を示す形で長期金利の小幅上昇を容認した一方、少なくとも2019年10月の消費増税の影響が消えるまでは緩和を続けると表明した日銀の意図は、円高阻止にあったとの見方もある。そうした見方に沿えば、日銀の狙い通りの調査結果と言えるだろう。

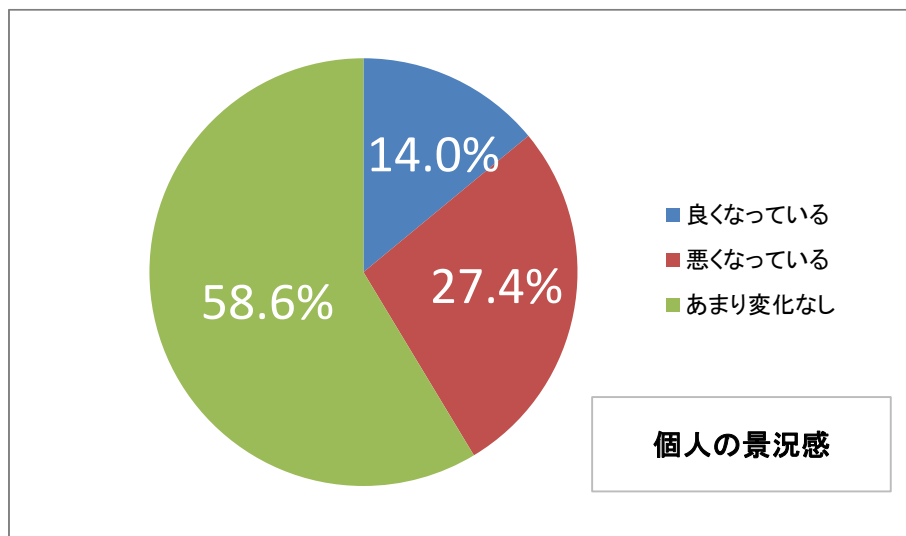


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

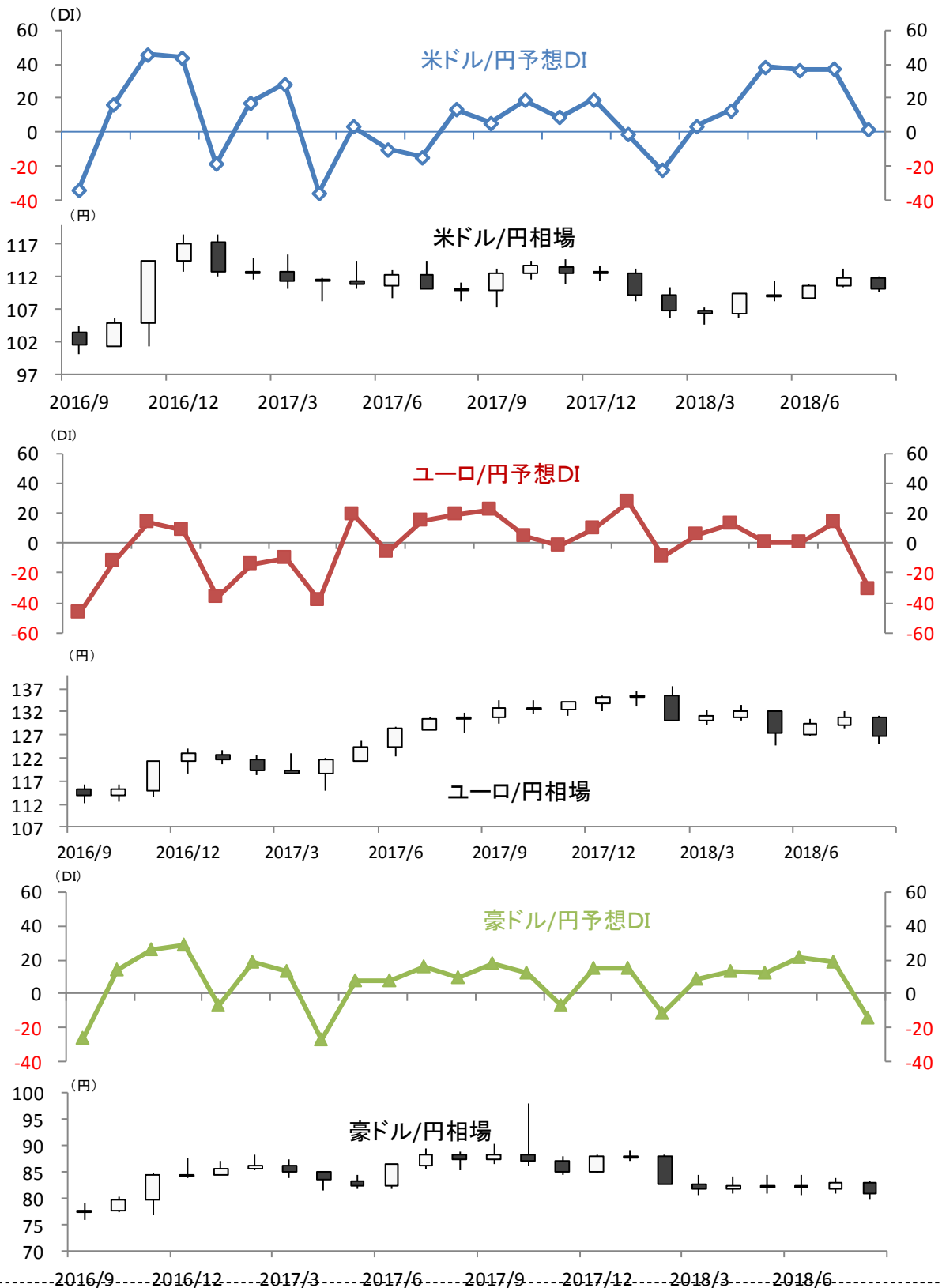
今回のもうひとつの特別質問として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が14.0%、「悪くなっている」が27.4%、「あまり変化なし」が58.6%で過半数を占めた。3カ月前の5月調査では「良くなっている」が20.5%、「悪くなっている」が22.7%、「あまり変化なし」が56.7%であった。「あまり変化なし」が過半数を占めた点には変わりはないが、「良くなっている」が減少して「悪くなっている」が増加したのが気がかりな点だ。まだ、大きな変化とは言えないものの、こうした個人投資家の景況感悪化傾向が続けば、取引意欲の減退などに繋がる可能性も否定できなくなりそうだ。今後の調査結果を注視したい。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第111回目となりました。調査開始から9年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2016年	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
	3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
	4月	21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
	5月	38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
	6月	33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
	7月	30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
	8月	45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4
	9月	40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2
	10月	48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3
	11月	40.0	31.1	8.9	29.0	31.4	-2.4	26.9	33.8	-6.9
	12月	45.5	26.1	19.4	35.0	25.0	10.0	38.0	22.6	15.4
2018年	1月	38.0	39.2	-1.2	48.2	21.3	26.9	37.3	22.6	14.7
	2月	29.1	51.4	-22.3	30.1	38.9	-8.8	28.4	39.9	-11.5
	3月	39.6	36.0	3.6	34.0	29.0	5.0	38.6	30.2	8.4
	4月	42.8	30.1	12.7	37.9	25.3	12.6	39.0	25.3	13.7
	5月	57.4	18.9	38.5	30.3	30.3	0.0	34.9	22.6	12.3
	6月	55.5	18.9	36.6	33.0	32.5	0.5	39.5	18.4	21.1
	7月	58.1	20.9	37.2	37.9	24.3	13.5	40.3	21.6	18.7
	8月	37.3	35.7	1.6	22.1	53.1	-31.0	27.4	41.9	-14.5

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com